令和6年度静岡市協働パイロット事業 企画提案書

団体名：一般社団法人グリーンパークあさはた

1 事業のタイトル

こもればカフェ in あさはた緑地 (仮称)

2 背景・現状 (事実に基づきデータなどを用い、現在の静岡市にどのような問題があるのかを明確に記載してください。)

近年、全国的に公園や緑地といった公共スペースの在り方を再構築する動きが加速しています。例えば2017年に改正された都市公園法により Park-PFI (公募設置管理制度) が設置され、民間企業のアイデアと資本を元に、新しい公園の在り方が提案でき、事業者のインセンティブも満たす規制緩和が行われました。しかし公共の場である公園は、消費者ニーズに応える発想だけでは愛される場にならないことも、また浮き彫りになっています。受け身のサービス享受ではなく、能動的に場づくりに関わり、主体的に公共を担う市民が集うことで初めて公共空間の持続可能な運営が実現します。

そうした中で、私たちはあさはた緑地交流広場の指定管理事業の方向性として「消費されない公園」、「作る側になれる公園」を目指してきました。この3年間で地域の自治会をはじめ、近隣の福祉施設や教育機関などとの連携が進んでいるほか、民間事業者によるキッチンカーの出店、広場スペースを活用したイベント開催など、多彩な公園活用のイメージーションが広がっています。ただ、ボランティア制度はまだ業務の補助がメインで、イベントの開催もスペース活用にとどまるものが大半であり、その場の魅力を引き出したり、機能を活用して地域課題に取り組むような視点を持った取り組みはほとんどみられていないのが現状です。

このように静岡市において公園という場の活用可能性はまだまだのびしろがあるにも関わらず、課題テーマ内で示されたようにみどりのまちづくりへの関心層は市民の約3割にとどまり、そのノウハウの蓄積はないに等しいのが現状です。あさはた緑地の運営が次のステージに移るためにもみどりの活用ノウハウを身につけた仲間が増えていくこと、増やしていくことが望まれます。

3 目指す状態・成果 (現状に対して、どのような状態になっていることが社会の理想的な姿か、明確に記載してください。)

【目指す状態】

静岡市民が、公園を主体的に関わることのできる公共の場として認識し、アイデアを表明する心理的安全性が確保され、行政や地域住民、公園関係者が友好的にプロセスを重ね、豊かなイメージーションで活用事例を積み重ねていくことを理想とします。特に、大規模な公園だけではなく、街区公園のような身近な公園の活用が市民主体で行われている状態を目指します。また、あさはた緑地がそうしたムーブメントの発信地として認識され、仲間が集い、また拡散していく状態を目指します。

【成果】

公園・緑地を活用する市民の裾野が広がり、多様なステークホルダーが参画すると同時に、単なるスペースとして利用するのではなく、地域特性や地域課題を認識し、周辺住民と協調して「活用」する仲間が増える。また、そうした仲間を増やす役割を担い、活躍を促すコーディネーターが育つ。

4 社会的課題（「2 背景・現状」と「3 目指す状態・成果」を比較し、目指す状態に至らない理由や問題点を明確に記載してください。）

公共空間の利活用となると、行政とコンサル会社、大手事業者などが実施する公共事業として、一般市民が関与する余地がないイメージがあり、説明会やパブコメの段階における地域住民の声は政策判断の参考意見ではなく、反対意見と見なされがちです。そうなると主体的に声を上げる存在のイメージが悪くなり、共感が広がらず、反対意見は先鋭化するという悪循環が生まれ、行政と市民との溝は広がる一方です。

静岡市においては城北公園での一件も記憶に新しいところですが、一方でいまだ市民による小さな街区公園へのアプローチも寡聞にして知りません。公共の場はみんなで作るものであるという前提に立ち、行政側の合意形成を丁寧にデザインする責任と、市民側の能動的に参画する姿勢を育むことの両面に課題があると考えます。言い換えれば、双方の距離が開きすぎていること、協働の成功体験が乏しいことに課題意識があります。

5 事業の概要（「4 社会的課題」で掲げた課題の解決をするために、どのような事業を提案するのか及びその成果指標について、「3 目指す状態・成果」の内容を踏まえて記載してください。）

静岡市の現状としてみどりのまちづくりへの関心が、統計上も実感値としてもまだ薄いことから、課題テーマに取り組む前段階として、市民が公共空間に能動的に関わろうと思える、気運の醸成から始める必要があると考えます。そこで、2年間を前提として次のプロセスを提案します。

■ 1年目 先輩コーディネーターとの意見交換で「みどりを公共空間として活用する」、「それにより社会課題を解決する」ことの可能性を言語化し、それを土台として市民との対話の場を設けることで、A.プロセスのオープン化、B.市民ニーズの把握、C.キーパーソンとなり得る仲間探し、を行います。

① 先輩コーディネーター相談会（全1回）

公共空間の活用経験のある有識者である先輩コーディネーターを4名お招きし、公共を自分ごとと考えるシチズンシップを醸成するためのアプローチについて意見を伺います。また、それぞれ活動の先行事例についても紹介いただき、その共通点や特異点などを議論します。

② こもればカフェ in あさはた緑地（仮称）（全2回）※先輩コーディネーターも参加

2回とも各回一般募集とし、自由で心理的安全性が保たれた場を創ります。そこでのゆるやかな交流を通じ、公園に対する願いや関わりの可能性について市民自身の言葉を紡ぎます。

Point ネーミングや広報イメージから敷居の低さを演出し、あさはた緑地の水辺の木陰エリアを活用することで屋外でのピクニックっぽいロケーションによるワクワク感、オープンさから自由で心理的安全性が高い雰囲気づくりを行います。

市 民…自身が公園を活用して何らかの課題解決に携われる可能性を体感する。

共通体験を持つ市民同士でゆるやかなコミュニティが築かれる。

行 政…市民のリアルな課題意識を収集し、公園活用の糸口・キーパーソンを見出します。

申請者…市民が行動を開始する時に必要な知識や実践をピックアップし、2年目に予定している研修の内容に反映させます。また2年目の研修参加者を発掘します。

成果指標 こもれば 카페の参加者数・発言内容（定性）・アンケート結果・次年度研修（仮定）の参加表明数・対話の場としてのいい画が複数枚撮れる

- 2年目 1年目で抽出された要素を元に人材養成研修のパイロット版※を試行します。（全3回）。また、人材養成研修パイロット版の成果発表会を兼ねた交流会を開催します。（全1回）。

① **人材養成研修パイロット版**（全3回）※参加費の徴収を検討しています。

1年目の交流会に参加し関心が高い方々を中心に呼びかけ、限定的な人材養成研修を開催します。内容は公園での小さな協働事業（みどり企画）を自主的に興せることを目標とします。

② **こもれば 카페 in あさはた緑地（仮称）**（全1回）※他の会場も視野に

1年目と同じ形式の対話イベントを開催します。その場で人材養成研修参加者によるプレゼンテーションを行い、対話の糸口とします。事業継続を見据え、本番の研修参加への意識付けや内容に対するフィードバック、新たな参画意欲を引き出します。

成果指標 研修の実参加者数・参加者による企画提案の質（定性）・参加者や関係者からのフィードバックとそれに基づく本研修のイメージ構築
こもれば 카페参加者数とアンケート結果

6 **市と協働をする理由**（団体独自で行うのではなく、市と協働することが必要な理由や、市と協働することによって得られる効果等を記載してください。）

■「4 社会的課題」の欄で指摘の通り、協働そのものが目的の一つになっており、この事業が行政と協働し、みどりを活かしたまちづくりの先事例の一つとなることが意図されています。

■公園のほとんどはそもそも行政の管轄する公共空間であり、その活用は必然的に行政との協働になります。市民は関係法令が存在する理由や市の方針を大枠として理解し、活用の可能性を市のどの部署とどのように協議すればいいのかのノウハウや外せないポイントを知る必要があります。そのため、当事業は市との協働無しには成り立ちません。

■公園の活用は地元地域や既に活用している団体等との関係づくりや調整が必要になってきます。そうした際に、潤滑油としての役割が行政に期待されるため、市の担当者にとっても当該事業を通じてそうした経験、知見の蓄積としていただきたいと考えています。また、こうした行政の本来の役割を市民が理解することは、人材養成事業の要とも言えます。この協働事業によって健全なシチズンシップの醸成が市に還元されることが、私たち市民と静岡市の双方にとって有益なものとなります。

7 団体の担う役割

- 1年目…①先輩コーディネーター相談会（全1回）の準備、運営
 - ②こもれば 카페 in あさはた緑地（仮称）（全2回）の企画・広報・運営・まとめ
 - ③2年目の研修プログラムの構築
- 2年目…①人材養成研修パイロット版（全3回）の企画・広報・運営・まとめ
 - ②こもれば 카페 in あさはた緑地（仮称）（全1回）の企画・広報・運営・まとめ

8 静岡市に担って欲しい役割

- 1年目…①先輩コーディネーター相談会における公園に関する市の方針（みどりの基本計画）や関係法令などの解説、会議室の確保
 - ②こもれば 카페への市役所内関係課の担当者出席依頼・広報支援
 - ③2年目の研修プログラムの構築
- 2年目…①人材養成研修への出席・公園に関する市の方針や関係法令などの解説
 - ②人材養成研修における他のみどり関連部署との調整、連携の推進
 - ③こもれば 카페の会場調整・市役所内関係課の担当者出席依頼・交流会の広報支援

9 事業計画・実施スケジュール（協働パイロット事業で実施する事業のスケジュールを記載してください。2年間にわたる事業を検討している団体は、2年目の計画についても記載してください。）

■ 1年目 2024年度

- 7月中旬 先輩コーディネーター相談会（全1回）開催
→ここでの内容を加味してこもればいカフェの広報開始
- 8月上旬 こもればいカフェ in あさはた緑地（仮称）①
- 9月下旬 こもればいカフェ in あさはた緑地（仮称）②
- 10月～ 研修プログラムパイロット版の構築

■ 2年目 2025年度

- 7月 人材養成研修パイロット版内容構築・広報開始
- 9～10月 人材養成研修パイロット版開催（全3回）1～2週おきに開催
- 11月 こもればいカフェ in あさはた緑地（仮称）③
- 11月～ みどり人材養成研修の構築

10 協働パイロット事業終了後の展望・今後の活動展開（協働パイロット事業終了後にどのように事業展開をしていく予定か記載してください。）

■人材養成研修パイロット版の成果や課題を見据え、本研修の構築を行い数年間実施します。

■事業展開のイメージは以下の通りです。

2026年度 ①みどり人材養成研修【目標：みどり企画立ち上げ・単発開催】

成果：10名の参加がある。数企画が実行される。

②みどりのコーディネート人材養成研修パイロット版試行

2027年度 ①みどり人材養成研修【目標：みどり企画立ち上げ・単発開催】

成果：10名の参加がある。数企画が実行される。

②みどりのコーディネート人材養成 本研修開催

成果：8名の参加がある。市民プロジェクトが立ち上がる。

2030年度までに

1団体以上のみどりの市民団体が立ち上がる。2件以上の協働プロジェクトが実施される。

1件以上の協働パイロット事業エントリーがある。

11 実施体制及び主要スタッフの経歴

■一般社団法人グリーンパークあさはた

§ 木下聡 代表理事 あさはた緑地管理事務所 所長（全体統括）

一般企業に5年間勤務。青年海外協力隊モンゴルで環境教育隊員として2年間活動。国際協力NGO 難民を助ける会[AAR Japan]に入職し、東北被災支援、海外支援事業および企業との連携担当を歴任。2018年以降はフリーランスとして静岡を拠点にNPO支援やSDGs普及活動を展開。2021年から現職において「あさはた緑地交流広場」の指定管理者として、公共空間の運営に従事。

§ 白鳥真帆 あさはた緑地管理事務所 主任（広報）

令和3年4月よりあさはた緑地交流広場の主幹スタッフとして勤務。デザイン学校で学んだ知識、技術に加え、前職で培ったマネジメント力を活かして、情報発信、広報イベント企画運営等を担当している。

§ 村松可菜 あさはた緑地管理事務所 主任（事業運営）

令和3年4月よりあさはた緑地交流広場の主幹スタッフとして勤務。学生時代に学んだ環境教育の知識、経験と、前職で培った接客スキルを活かして、環境教育事業や体験農園事業、イベント企画運営、地域連携活動等を担当している。

■アドバイザー（企画・運営サポート）

§ 木村智子氏 有限会社スマイルプラス

豊富な造園知識を基盤に公園のハードウェアとしてのみどりを設計するだけでなく、市民の関わる余白を作りコミュニティを育み、「生きた」公園を創造している。神代植物公園でのJINDAIペレニアルガーデンプロジェクト、浜松市万斛庄屋公園での公園づくりワークショップファシリテーター等、市民活動支援業務、東京都清瀬市でのKiyose花のある公園プロジェクトなど実績多数。

§ 山本由加氏 tecowork

環境教育系NPO職員・役員として16年間NPO経営に携わった後独立。利害が対立しやすい自然環境に対する合意形成のためのワークショップや、自然の理解を深め世代間の共通言語を作る環境教育など、自然環境を「公共の場」として啓発・活用するためのアクションに長年関わる。認定NPO法人しずおか環境教育研究会前理事長、静岡市市民活動促進協議会副会長、静岡市社会教育委員会委員。

■先輩コーディネーター案

§ 阪口瀬理奈氏（公財）静岡県公益財団法人 ふじのくに ICT人材育成プロデューサー【内諾済】

（一財）静岡経済研究所特任研究員 兼務。コンサルティング業務のかたわら、中小企業の工場見学イベント支援や市民ライターによる静岡テーマの同人誌発行など、プライベートとソーシャルの間を創出するプロジェクトを主宰する。

§ 松尾憲宏氏 CCC(静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター) 【内諾済】

magnet-design 主宰。(公社) 静岡県屋外広告協会会員。

屋外サインの専門家としてまちづくり事業などに参画。静岡市プラモデル化計画(2022年度グッドデザイン賞)のプラモニュメントデザインを担当。デザインを通じて公共空間の価値を市民に伝える専門家。静岡県景観賞審査員、静岡市まちかどコレクション審査員

§ 杉山浩太氏 匠宿館長(指定管理者:株式会社創造舎) 【調整中】

指定管理の枠に収まらず、匠宿の周辺地域一帯を面で開発する「創造舎」ならではの手法と「工芸」を軸に人材育成や地域課題へアプローチする視点などに期待

§ 土肥潤也氏 一般社団法人トリナス 【調整中】

「みんとしょ」における私設な公共スペースという成功事例、「わかものまち」で取り組み続けていることも若者政策への知見などのインプットに期待

12 その他アピールしたいこと（団体の専門性や先駆性、創造性など、特に団体としてアピールしたいことを記載してください。）

■ 私たち一般社団法人グリーンパークあさはたは指定管理者として静岡市あさはた緑地交流広場の管理運営をこれまで3年間担ってきており、地域住民や地域活動団体との良好な関係を構築した上で、施設の管理運営や多数のイベントを企画運営してきました。この事業を通じて今回のカウンターパートである静岡市緑地政策課とはすでに協働を実施してきた関係性があることは最大の強みとしてあり、またこの事業自体が協働としての成功事例の一つであることも大きなアピールポイントとして挙げられます。実際、令和3年度から5年度にかけた第1期3年間の指定管理事業の総合評価（実質は最初の2年間の実績を基にした評価）では委員の方々から非常に高い評価を得ることができました。また、外部評価としても、自主事業の「夏の自然あそび教室」が環境省の環境学習動画100選への選出されたり、国土交通省の第4回グリーンインフラ大賞ではあさはた緑地の持つグリーンインフラとしての価値や機能、それを活かした取り組みなどが評価され「優秀賞」を受賞、また日本ビオトープ協会の2024年度ビオトープ顕彰においては公共空間において造園会社を含む民間の指定管理者主導で地域住民やボランティアも連携してみどりの魅力を創出・維持している点が認められ「大賞」を受賞するなど、みどりに関するさまざまな分野で高い評価を受けています。特にグリーンインフラ大賞はみどりの機能を活用した事例としての表彰を受けたものであり、対象とする課題テーマに沿った視点や取り組みの実践者であることを示しています。

■ 前述のような高い評価を受ける公園運営を担う若手スタッフもアピールポイントであり、当該申請事業の堅実な運営に自信が持てることはもちろん、事業内のプロセスに接することで、スタッフ自身も大きく成長してみどりの活用人材、みどりのコーディネーターに育ってくれることが期待されます。

■ 全体統括を担う、所長の木下は静岡内外の市民活動の実践者とのネットワークがあり、分野も草の根の地域活動から国際協力、人道支援、環境学習、障がい者支援など幅広く知見を持つことから、他分野に横断してみどりの可能性を拓ける事業展開を担う適性を持ち合わせています。

■ 全体統括を柱として、みどり活用の専門家であるアドバイザー2名ならびにまちづくりの視点で活躍されている先輩コーディネーター諸氏、そして多くの市民の声を基にプログラムをゼロから丁寧に積み重ねることで、静岡ならではの唯一無二の研修が実現しつつ、他地域にも水平展開しうる本質的な骨格を持つプログラムが生み出せると確信しています。